

第40回 ペスタロッチ祭

<http://www.human.tsukuba.ac.jp/education/>



会場へのアクセス

- ◆ つくばエクスプレス「秋葉原駅」から「つくば駅」（快速45分）
→筑波大学循環バス（右回り）「大学会館前」停留所
- ◆ 東京駅八重洲南口から「筑波大学」行き高速バス（約75分）

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学人間系（教育学域）



Konrad Grob - Pestalozzi bei den Waisenkindern in Stans.

日時：平成30年3月6日(火) 13:30~19:00
場所：第Ⅰ部 筑波大学 大学会館 国際会議室
第Ⅱ部 筑波大学 大学会館 レストランプラザ

筑波大学人間系(教育学域)主催

<第Ⅰ部>

大学会館 国際会議室
13:30~16:40

ペスタロッチ祭

司会 藤井 穂高 (人間系教授)
本田 辰雄 (博士後期課程院生)

開会の辞	13:30~13:40	井田 仁康 (教育学域代表)
特別講演	13:40~14:50	窪田 眞二 (筑波大学人間系教授) 学校評価の難しさと伸びしろ
	14:50~15:10	休憩
最終講義	15:10~16:30	嶺井 明子 (筑波大学人間系教授) 戦後日本における 国際理解教育政策の展開と課題
閉会の辞	16:30~16:40	藤井 穂高 (教育学類長)

<第Ⅱ部>

大学会館 レストランプラザ
17:00~19:00

ペスタロッチ・アーベント

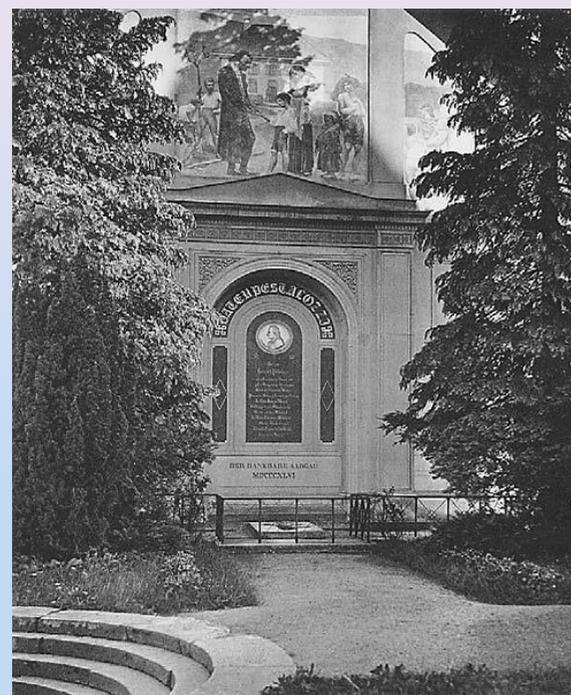
司会 山本 容子 (人間系助教)
山本 高広 (博士後期課程院生)

ペスタロッチ祭のあゆみ

昭和20年代のはじめ、当時の東京文理科大学で、梅根悟教授(後に東京教育大学で教育史講座を担当し、退官後和光大学の初代学長)を中心に、そのまわりにいた教官や研究生や学生たちがささやかなペスタロッチ・アーベントを始めた。それはペスタロッチの誕生日と記念日に近い2月頃だったろうか。夕刻、机を片付けた教室で、酒を酌み交わし、教育と教育学について談論する会であった。

この楽しい夕べの集いは、昭和32年頃に、東京教育大学教育学科の定例行事となり、「ペスタロッチ祭」と呼ばれるようになった。2月の土曜日、学科の全教官と全学生が集まり、卒業生を招待して、卒業論文の発表、大学院生の研究発表、学科教官の特別講義、学外講師による講演を聴き、それにひきつづいて教育学科4年生と教育学専攻の大学院2年生(修士課程修了者)とを送る会を兼ねた懇親会を催すという慣わしは、この頃できあがったものである。この祭典は、昭和44年のただ一回を除いて、昭和53年、東京教育大学の閉学まで続けられた。大学紛争の時には、教官と学生との学科を挙げての討論会が持たれたこともあった。

筑波大学に移行し、教育学関係の研究・教育組織が一応の完成をみた昭和54年、東京教育大学教育学科の象徴的行事であったペスタロッチ祭を復活継続しようという気運がおこり、3月1日、教育学系の教官、大学院教育学研究科および教育研究科の学生、人間学類教育学主専攻の学生が一堂に会して、復活第一回のペスタロッチ祭を開催した。以来、この催しは、広く教育と教育学の問題に関心を寄せる人びとが集う共通の広場となっている。



ペスタロッチの墓所
(Laedrach, W., Heinrich Pestalozzi, Bern より)

HEINRICH PESTALOZZI
GEBOREN IN ZÜRICH AM 12. JANUAR 1746,
GESTORBEN IN BRUGG DEN 17. HORNUMG 1827.
RETTER DER ARMEN AUF NEUHOF,
PREDIGER DES VOLKES
IN LIENHARD UND GERTRUD,
ZU STANS VATER DER WAISEN,
ZU BURGDORF UND MÜNCHENBUCHSEE
GRÜNDER DER NEUEN VOLKSSCHULE.
IN IFERTEN ERZIEHER DER MENSCHHEIT.
MENSCH, CHRIST, BÜRGER.
ALLES FÜR ANDERE, FÜR SICH NICHTS.
SEGEN SEINEM NAMEN!

2月19日、ペスタロッチの遺骸は、ノイホーフ近郊ビル村の教会と学校の間ささやかな土地に埋葬された。彼の遺言どおり、ただ1本のバラが目印とされ、この状態は19年間変わらなかったという。学校の改築が必要になったとき、アールガウ州の議会は、この教育界の恩人を称えるための墓碑の建設を決議した。その結果、埋葬地からわずか数歩の地点に面した新しい学校の壁面全体が墓碑に充てられることになり、そこに今やペスタロッチの名前とともに世界的に有名になっている碑文が刻まれている。

(長尾十三二・福田弘共著『ペスタロッチ』清水書院より)